

デンマーク雑感

平 林 浩 介

当社の製品の一つに大型TV用のプロジェクションスクリーンがあります。このスクリーンはアクリル樹脂を成型してつくるフレネルレンズ(FRESNEL)とレンチキュラーレンズ(LENTICULAR)を組合せたものですが、その設計において優れているデンマークの研究組織と1989年の春に接触を開始しました。その後しばらくしてアクリルモノマーから高速キャスティング法によりレンズを成型している会社があり、倒産しかかっていたのを引受けざるを得なくなりました。いわゆる資本買収という形でしたがコペンハーゲンの近郊に小さな会社が設立されたので、この約3年間に頻繁にデンマークとの間を往き来しました。コペンハーゲンはヨーロッパにおける交通の要地の一つでありますから訪問された方は多いと思いますが、日本では案外知られていないこともありその間に感じたことをいくつか紹介させていただきます。

デンマーク本土はドイツと陸続きのユトランド半島とコペンハーゲンのあるシェラン島を中心とした大小500の島から構成されており、九州と同じくらいの面積ですが、全くの平野ばかりで標高は最も高いところで海拔200mに達しませんから、なだらかな丘がある程度で山国の日本とは随分と異った風景です。コペンハーゲンの位置は北緯56度で樺太北端に相当するときと一寸たじろぎますが、ドイツ北部とはほぼ同じ気候で降雪量は比較的少ないようです。私は漠然とデンマークを農業国と思っていましたが、農産物やその加工品の輸出国としてのイメージが強すぎた結果であって、こと輸出に関してはここ数年工業製品が上廻っている様

です。もともとデンマークの対外貿易は非常に盛んで完全な自由貿易信奉国ですが、北海の海底油田と天然ガス以外には天然資源が殆んどなく工業製品輸出に力を入れている点では日本と似ているところがあります。日本との貿易関係をみますと、デンマークは世界でも希な日本への輸出超過国であり又近隣のヨーロッパ諸国よりも日本への輸出高が多いのは一寸意外な気がします。ですから米国や他のEC諸国と全く異って対日感情は非常によく、日本人にとっては大変に付合い良い相手といえます。その割には日本からデンマークへの投資は非常に少く、商社、銀行、運輸、観光業等の支店活動はありますが生産活動をしている日本からの進出企業は殆んどみられません。デンマークはEC加盟国であると同時に北欧5ヶ国の一員ですからEC市場、北欧市場両面への同時参入が期待出来る他に労働環境が非常によいこと、インフラストラクチャーが完備していること、政治的に安定していること、外国人スタッフの雇用に制約がないこと等を考えますともっと日本からの進出があってもよい様に思います。特に労働環境は良くいくつかの特徴的なことに触れてみます。デンマーク人の国民性は勤勉であるが非常にプライドが高く頑固でどちらかというと組織人に向かないときかされていたのですが、私の知るかぎりではその様なことはありません。勿論習慣や文化の違いからくる誤解やとまどいはありますが、その違いをお互いにどれだけ理解し、良い方を採用するという判断力や柔軟性は充分にもっている様です。一言で言えばデンマークの労働者のレベルはホワイトカラーも含めて日本とはほぼ同一と考えてよいと思います。

これはデンマークの教育水準が高いことと、かなり高い失業率のために若者が真剣に仕事にとり

組む風潮のあるためとも考えられます。因に一般労働者の失業率は8%前後ですが、大学卒の技術者や研究者はもっと高い失業率になっている様です。デンマークNo.1のコペンハーゲン大学の工学部卒業生の就職率は恐らく50%以下で、かなりの卒業生はやむを得ずふさわしくない（彼等の表現を借りれば）職場に就業しているのです。つい先日機械関係の大卒エンジニア1名を新聞広告で募集したところなんと130名の応募があり、1名に絞るのが惜しくて3名採用してしまうといった日本では考えられない様なこともあります。教育制度は中学校までは義務教育でそのあと大学へ進むための高等学校と職業訓練学校があります。大学進学率は低く職業訓練学校へ進む若者が多いのですが、ここでの教育が非常に優れている様です。通常3～4年の基礎職業教育とそれに続いて実際の職場での実習と学校での訓練を繰返す訓練教育とがあって、卒業生はほぼ1人前の技能者として認められています。ところで我々にとって大変有難いことに、デンマークでは小学校から英語が必修ですから殆んどの人が流暢な英語を話せ、オフィスや工場内での会話は十分にコミュニケーション出来ます。

但し政府機関に提出する公式書類、報告書等は公用語であるデンマーク語が要求されます。取締役会も最初のうちは英語ですが、複雑な話題になってくると当然のこと乍ら日本語とデンマーク語が混じって整理するのが大変です。というのもドイツと同じで取締役会のメンバー構成に従業員代表（労働組合代表ではない）が1/3追加はるために、予め決めてあるAGENDAに従って事務的に議事が進行されるということではなく、かなり熱の入った意見交換があります。従業員代表は役員会メンバーとしての発言が求められますので、先程まで工場で製品検査をしていた女性が役員として出席し経営方針に関しての意見を堂々と述べるのを聴くと一寸変な気がしないでもありません。デンマークではここ数年ストライキはなく安定した労使関係にあります。労働問題の特徴の一つに国民失業保険の運用が労働組合に任されていることがあります。そのために、例えば不良社員を解雇したいときには労働組合に文書で理由を通告

しておくトラブルが起きることなく受理され労働組合が失業手当を負担しますし、交替の従業員をすぐに紹介してきます。デンマーク人は働かない、休んでばかりいるとの評判がある様ですが、年3回の長い休暇があるためではないかと思えます。4月のイースター、12月のXマス休暇は約10日ですが、7月の夏休みは連続3週間とることが義務づけられています、従って7月は工場は殆んど稼働しません。又普段も残業はしません。残業しないのは残業手当が労働組合に払はれ、本人にはその1部がバックされる（労働組合によっては異なる様ですが）ことも原因になっているかもしれません。何れにしてもこれ等のことをもってしてデンマーク人が怠け者であると極めつけるのは賛成出来ません。一般に云われていることですが、彼等の時間内の労働密度は非常に高く、むしろ日本人の方がダラダラと長時間働く傾向にあると思います。さてデンマークは世界で最も社会保障制度が整備されている国であることは良く知られていますが、そのために個人の負担する税金は非常に高額です。所得税の上限は68%ですが日本から赴任する場合殆んどの人はこの上限に達してしまいます。外国からの赴任者は将来保障の対象になることは考えられないので特別税率にしてほしいとの要望が強く、近々議会で外国人対象の税率が検討されることになっています。この所得税の他に一般消費税があらゆるものに22%かかります。コーヒー1杯飲んでもきっちりと請求されます。そのためか一般にデンマーク人の生活は実に慎しく、ホームパーティに招かれても御馳走は期待出来ません。まあ贅沢は出来ないかわりに医療費も教育費もタダ、老後の心配は全く不用なデンマークと1億総グルメで飽食の割には病気になったときや、老後が気になる日本とではどちらがよいのか……。